

日頃から災害に備えよう

■ 災害時の安否確認

● 災害用伝言ダイヤル 171

災害時には、一般的な電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤル171は、安否情報を録音して伝えることができる「声の伝言板」です。

伝言の録音・再生は、一般電話、公衆電話、携帯電話、PHS(共に一部事業者を除く)から行えます。なお、利用にあたっての事前の契約などは不要です。

● 災害用伝言板「web171」 ● 携帯電話「災害用伝言板」

安否情報をテキストで登録します。登録された安否情報は、電話番号をキーとして、携帯電話やパソコンから確認することができます。

■ 最新情報を入手しよう

しまね防災情報

● 土砂災害危険度情報など

<https://www.bousai-shimane.jp/>

マップonしまね

● 独自の「地域の防災マップ」などが作成できるサイト

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/pref/koho/gis/>

大田市役所 TEL:0854-82-1600(代表)

● 防災・災害情報・防災ハザードマップなど

<https://www.city.ohda.lg.jp/>

□ テレビやラジオでも情報収集を!

国土交通省 中国地方整備局 TEL:082-221-9231(代表)

● 防災情報・河川情報・道路情報など

<https://www.cgr.mlit.go.jp/saigai>

国土交通省 リアルタイムの防災情報

● 雨量情報・水位情報など

<https://www.river.go.jp/>

松江地方気象台 TEL:0852-22-3784

● 気象警報・注意報・土砂災害警戒情報など

<https://www.jma-net.go.jp/matsue/>

■ 困ったときの連絡先

●自力で避難できない場合	市役所・支所・自治会長・自主防災組織・民生児童委員・近所の人・消防団のいずれかに電話し、支援を要請する				
●停電になった場合	電源やコンセントを切り、中国電力ネットワーク株式会社 出雲ネットワークセンター 0120-311-957 (温泉津町は浜田ネットワークセンター 0120-312-815) に電話する				
●防災行政無線が聞き取れない場合	市役所・支所に電話し、内容を確認する テレホンサービス：0854-82-4444 または 0854-82-4554				
●逃げ遅れた場合	あわてず 2 階に移動し、消防署に連絡し救助を待つ				
●大けがをした場合	応急処置をし、消防署に電話する				
●家族の安否が不明の場合	災害用伝言ダイヤル 171 などで安否確認のうえ、警察署・市役所・支所に電話する				

温泉津支所	0855-65-3111	仁摩支所	0854-88-2111	大田市立病院	0854-82-0330
大田警察署	0854-82-0110	温泉津広域交番	0855-65-0110	道路緊急ダイヤル (国交省管理)	#9910
県央県土整備事務所 大田事業所	0854-84-9725	自治会長		民生児童委員	

■ わが家の防災メモ

ひなんじょ 避難所		
かぞく 家族の じゅうどうばしょ 集合場所		
ひじょうもぢだいひん 非常持出品 お の置き場所		

なまえ 名前 (家族・親戚・知人)	れんらくさき 緊急時の連絡先 (会社・学校・携帯電話)	けつえきがた 生年月日 / 血液型

大田市防災ハザードマップ



朝山町・波根町



災害による被害を最小限に食い止め、
安全な避難を行うには、地域内での助け合いが大切

防災ハザードマップの使い方

Oda-city Multi-Hazard Map

Oda-city Multi-Hazard Map

大田市防災ハザードマップ

1 目次

- 2 防災ハザードマップの使い方
- 3 津波について知つておきたいこと
- 4 洪水について知つておきたいこと
- 5 土砂災害について知つておきたいこと
- 6 避難に関する情報／避難の心得
- 8 地区1
- 10 地区2
- 12 地区3
- 14 地区4
- 16 日頃から災害に備えよう

おおだしほうさい
大田市防災ハザードマップには、大雨時の浸水想定、津波による浸水想定、がけ崩れや土石流などの土砂災害の警戒区域および避難所など、災害時に必要な情報を記載しております。

じしん つなみ しゅうちゅうごうう
地震、津波、集中豪雨…こうした自然災害は、いつどこで発生するか予測するのは困難で、いつどんな形で私たちの身に襲いかかるかわかりません。日ごろから、災害についての理解を深め、災害時に必要なものや情報を備えておくことが防災・減災につながります。

とう かつよう さいがい きけん かん はや ひなん
当マップをご活用いただき、災害の危険を感じたら「早めの避難」を心がけてください。また、災害による被害を最小限に食い止め、安全な避難を行うには、地域内での助け合いが大切です。ふだんから、ご近所、ご家族で「避難方法」や「危険な箇所」などについて話し合い、予測の困難な自然災害に備えましょう。

ばしょ ほかん はばひろ かつ
この防災ハザードマップは、わかりやすい場所に保管し、幅広くご活用ください。

【改訂内容】平成28年3月に作成したハザードマップを今回改訂した内容

- ① 島根県地震・津波被害想定調査をもとに、津波による浸水想定区域の見通し
- ② 静間川・三瓶川について、1000年に1度の降雨を想定した浸水想定区域へ見通し
- ③ 地すべり警戒区域を記載
- ④ 山あいの起伏を着色して見やすいうように表示

自分が住んでいる地域を探しましょう!

- 自分が住んでいる地域が含まれる地図ページを探します。
- 自分の家や学校の位置を確認します。
- 家や学校、通学路等に災害の危険箇所がないかを確認します。
- もしも近所に災害の危険箇所がある場合は、学校や家族で話し合い、ハザードマップを作成したり避難訓練を実施して災害に備えましょう。
- 必要と思われる追加情報があれば、自分で地図上に書き込んでみましょう。

チェックしよう！

- あなたの家は地図のどこにありますか？
- 近くに危ないところはありますか？
- 近くの避難所がどこか知つておきましょう。

● 指定緊急避難場所



● 指定避難所



河川浸水想定区域：水防法に基づく島根県指定の浸水想定区域を記載／津波浸水想定区域：島根県作成の津波浸水予測図、標高10mラインを記載
土砂災害警戒区域：土砂災害防止法に基づく島根県指定の土砂災害警戒区域を記載

津波について知つておきたいこと

Oda-city Multi-Hazard Map

■ 津波による浸水想定区域について

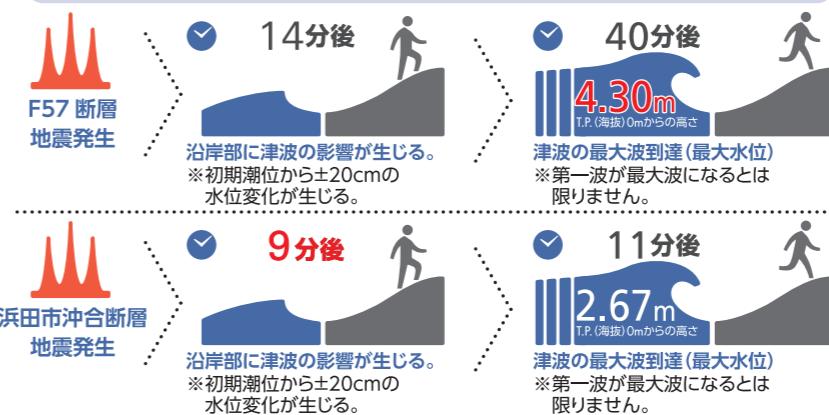
大田市での津波による浸水想定区域は、島根県が行った地震による津波シミュレーションを基に、浸水の範囲と深さを地図上に示しています。津波最高水位がもっとも高いのは、F57断層地震、最短到達時間が最も短い地震は、浜田市沖合断層地震になります。

想定断層	地震の規模	想定断層	地震の規模
F55	Mw7.5	F60	Mw7.6
F56	Mw7.2	浜田市沖合	Mw6.8
F57	Mw7.5		

Mw…地震は地下の岩盤がずれて起こるもので、この岩盤のずれの規模（ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ）をもとに計算したマグニチュードを、モーメントマグニチュード(Mw)と言います。



沿岸部に津波の影響が出るまでの想定時間



急いで高台へ避難することが鉄則！

津波は、陸地をさかのぼる場合があり、地震による津波の発生のおそれがある場合は、急いで高台などの安全な場所(高さ10m以上が目安)に向かって逃げることが鉄則です。



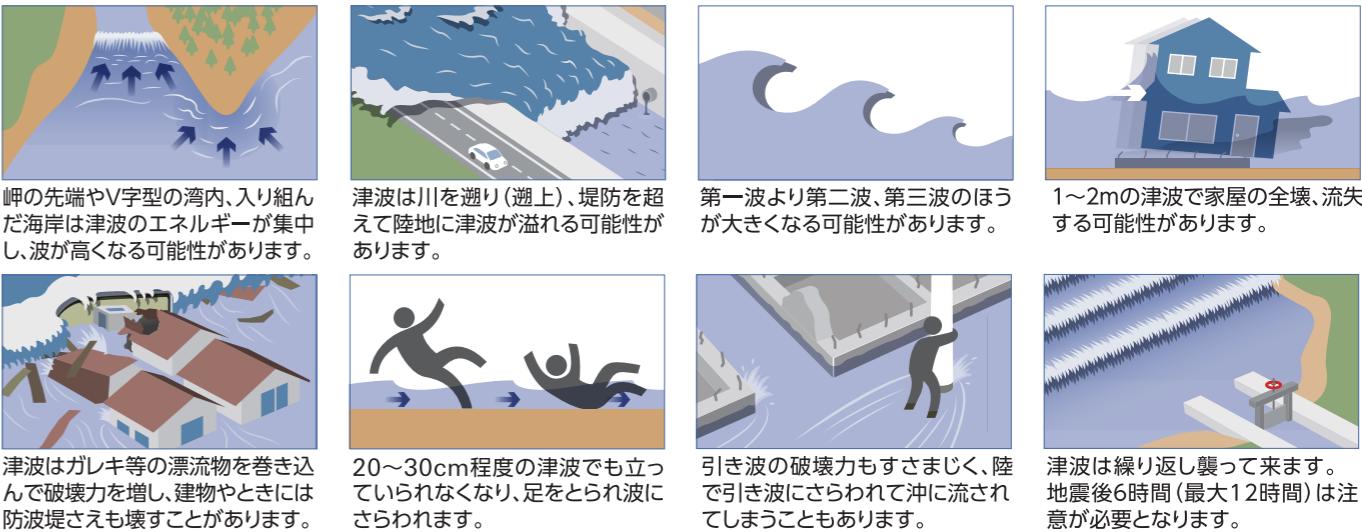
■ 津波警報・注意報などの情報を収集する

津波の発生が予想される場合、テレビ・ラジオなどを使って最新の情報を確認しましょう。

区分	内容	予想される津波の高さ		とるべき行動
		数値発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	3m以上の津波が予想されます。	5m 10m 10m超	巨大	ただちに海岸や河口から離れ、安全な場所へ避難しましょう。
津波警報	1~3mの津波が予想されます。	3m	高い	
津波注意報	20cm~1mの津波が予想されます。	1m	—	ただちに海岸や河口から離れ、今後の情報に注意しましょう。

■ 津波の特徴

津波はいくつかの特徴を持った災害です。津波の特徴を知り、いざというときのために準備をしましょう。



洪水について知っておきたいこと

Oda-city Multi-Hazard Map

■洪水による浸水想定区域について

洪水による浸水想定区域は、静間川、三瓶川、潮川、福光川を対象に作成したものです。静間川・三瓶川はおおむね1000年に一度の確率で起こる大雨、潮川・福光川はおおむね30年に一度の確率で起こる大雨によって増水し、堤防が決壊したり、水があふれた場合の浸水を想定し、その「範囲」と「深さ」を地図上に示しています。



■雨の降り方に注意しましょう！

洪水や土砂災害が心配される台風や集中豪雨のときは、雨の降り方で危険性がわかります。降水量によって、河川はん濫や土砂災害が発生する可能性が高くなりますので雨の降り方に注意が必要です。

強い雨（1時間に20～30mm）	激しい雨（1時間に30～50mm）	非常に強い雨（1時間に50mm以上）
 <p>土砂降りで、傘をさしてもぬれるほどです。小さい河川がはん濫することもあります。雨の様子に注意し、長引きそうであれば、避難に備えましょう。</p>	 <p>バケツをひっくり返したような雨です。山崩れ・がけ崩れなどが発生しやすくなります。避難準備情報の伝達がある場合に備えましょう。</p>	 <p>滝のように降り、先が見えないほど雨です。中小河川がはん濫し、土砂災害・水害が発生する可能性が高くなります。避難勧告などの発令に備えましょう。</p>
河川災害の主な前兆現象		
豪雨による洪水の発生過程		

■河川の水位情報と避難判断

主要な河川では、はん濫の危険度などを示す水位が定められています。河川の水位情報に注意して、早めの避難に役立てましょう。

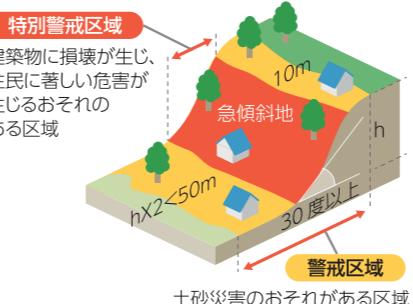
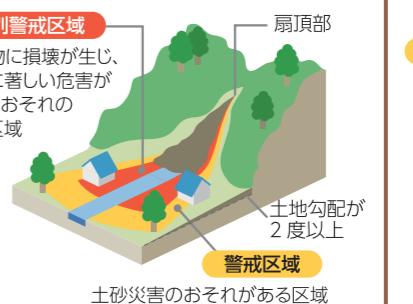
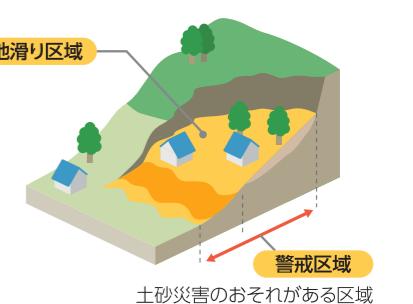
はん濫発生	説明	とるべき行動
▼はん濫危険水位	はん濫の起こるおそれがある水位	逃げ遅れた場合は、近くの高い建物で救助を求めましょう。
▼避難判断水位	避難判断の参考になる水位	避難を判断しましょう。
▼はん濫注意水位	水害に備え各水防機関が出動し警戒に当たる目安とする水位	避難に時間を要する人は、避難を始めましょう。



土砂災害について知っておきたいこと

Oda-city Multi-Hazard Map

■土砂災害の種類と危険な場所

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）	土石流	地すべり
<p>雨や地震などの影響によって、傾斜度が30度以上ある土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。</p> 	<p>山肌が崩壊して生じた土石などや、溪流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で、一瞬のうちに人家や畠などを壊滅させてしまいます。</p> 	<p>地面は何層もの地層が積み重なってできていますが、大雨が降り続くと地下に水がしみこみ、水を通しにくい粘土層の上に地下水がたまります。この地下水の力に持ち上げられて、粘土層を境に上の地面がゆっくり動く現象。</p> 
 <p>特別警戒区域 建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域</p> <p>急傾斜地 30度以上</p> <p>警戒区域 $h \times 2 < 50m$</p> <p>土砂災害のおそれがある区域</p>	 <p>特別警戒区域 建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域</p> <p>扇頂部 土地勾配が2度以上</p> <p>警戒区域 土砂災害のおそれがある区域</p>	 <p>地滑り区域 ①地滑り区域 ②地滑り区域下端から、地滑り地塊の長さに相当する距離(250mを超える場合は、250m)の範囲内の区域</p> <p>警戒区域 土砂災害のおそれがある区域</p>
<p>土砂災害警戒区域</p> <p>①傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域 ②急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域 ③急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域</p>	<p>こんな前兆現象に注意</p> <ul style="list-style-type: none">●がけに割れ目が見える●がけから水が湧き出している●がけから小石がぱらぱらと落ちてくる	<p>こんな前兆現象に注意</p> <ul style="list-style-type: none">●山鳴りがする●急に川の流れが濁り、流木が混ざっている●雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
土砂災害警戒区域		

土砂災害警戒区域

「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）とは、土砂災害によって「住民の生命身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域」であり、市町村地域防災計画で避難体制に関する事項を定めたり、マップによる住民への周知徹底を図ることとされる区域です。

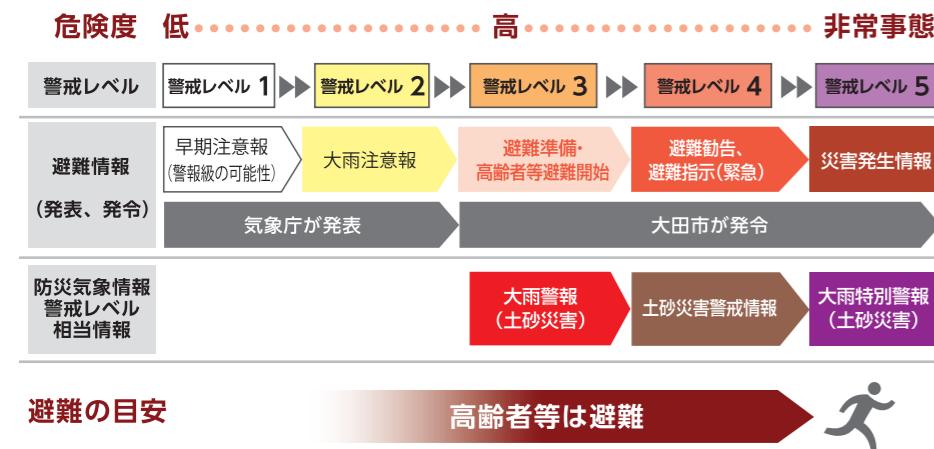
土砂災害特別警戒区域

「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）は、土砂災害によって「建築物に損害が生じ、住民の生命や身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域」です。土砂災害警戒区域よりも危険性が高い区域と考えればよいでしょう。

土砂災害特別警戒区域では、一定の開発行為が制限される（許可制になる）ほか、建築物に対して構造規制も適用されます。

■ 土砂災害時の避難判断

平成30年7月豪雨の教訓に、令和元年6月から避難を判断する情報の表現がかわりました。気象庁や大田市からの警戒レベル情報や前兆現象に注意し、早めに避難しましょう。



■ 警戒レベルの種類と求められる行動

危険度	警戒レベル	発令時の状況	市民のみなさんに求める行動
非常事態	警戒レベル5 災害発生情報	市内すでに災害が発生している状況	● 命を守る最善の行動 (避難所へ避難することが危険だと判断した場合は、近くの安全な場所や自宅のより安全なところへ移動)
	警戒レベル4 避難指示 (緊急) 避難勧告	災害が発生するおそれが極めて高い状況で、全員速やかに避難が必要な状況	● 立ち退き避難 (指定緊急避難場所への移動、近隣の高い建物への移動) ● 立ち退き避難に時間的余裕がない場合等の生命を守る最低限の行動 ● 屋内安全確保 (建物内の安全な場所での待避)
	警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	災害により人的被害が発生するおそれがあり、避難行動の準備を行う必要がある状況、また、避難行動に時間を要する人が避難行動を開始する必要がある状況。	● 速やかな避難に向けた準備 (家族との連絡、非常時持出品の用意等) ● 要配慮者等の避難行動に時間を要する人は、避難行動を開始
高	警戒レベル2 気象庁	注意報発表の時	● 避難場所や避難袋の確認
	警戒レベル1 気象庁	警報級の可能性	● 災害への心構え

「立ち退き避難」… 災害から身を守るために、現在地とは別の安全が確保された建物等に移動すること。
(指定緊急避難場所や近隣の安全な建物への移動をさします)



「屋内安全確保」… 屋内において、現在地とは別のより安全な場所に移動すること。
(自宅2階への避難、山と反対側の居室への避難など)

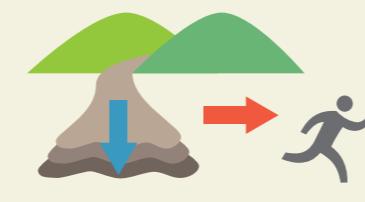
※この警戒レベルは、水害・土砂災害時のみ使用します。

土砂災害警戒情報とは?

大雨が続くと見込まれ、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、県と気象庁から発表される気象情報

逃げ方を知っていますか?

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまします。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。



■ 避難の心得

安全な避難経路の確認を!

- 事前に確認しておく
- 河川やがけの近くを通らない

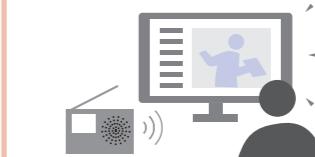


非常持出品の事前準備を!

- 定期的に中身を確認



正確な情報収集と自主的な避難を!



避難する前に!

- 電気・ガスの火元の確認
- 親戚や知人に避難することを連絡



ただちに避難を!

- 避難勧告
- 避難指示 (緊急)
- 危険を感じたら



動きやすい服装 2人以上で避難を!

- 2人以上で避難
- リュック
- 長袖、長ズボン



車での避難は控え、歩くで避難を!



災害時に援護を必要とする人に協力を!

- 身体の不自由な人
- 高齢者
- 乳幼児



■ 非常持出品

非常持出品は、夜間時の避難を前提に、足元を照らす懐中電灯をはじめとして、替えの下着なども必要となります。過去の避難の教訓から、緊急の避難でない場合は、非常食（1日分程度）を自分で用意する心がけが必要です。

非常持出品チェックリスト

食料品

- 飲料水
- 非常食



衣類など

- 下着・上着
- タオル
- 洗面用具



貴重品

- 預金通帳
- 印鑑
- 現金



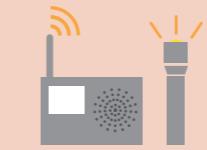
安全対策・その他

- 常備薬
- お薬手帳
- マスク等 (感染予防の為)



日用品など

- 懐中電灯 (予備電池・電球)
- 携帯ラジオ
- 予備電池
- 携帯電話
- 充電器



小さな子どもや高齢の方が居る家庭では

- 粉ミルク・ほ乳瓶
- 離乳食
- 流動食
- 紙おむつ



ペットの居る家庭では

- ケージ
- ペットフード
- ふん尿の始末用品



・非常持出品は必ず備えるようにしましょう。

・持出品は、欲張ると避難の妨げになる場合があります。(目安:男性15kg、女性10kg)

・何を、どれくらい、誰が持つかなどを、家族全員で話し合いましょう。

・持出品は、まず「無ければ困るもの」を用意し、常に身近においておきましょう。

次に「あれば便利なもの」を用意し、普段の生活の中に組み込んでおきましょう。

・非常食や飲料水の備蓄は、家族全員3日分を備蓄しておきましょう。

・飲料水は一人1日3リットルが目安です。小さな子どもや高齢の方の食料なども用意しておきましょう。